



# 水辺のごみ削減学習プログラム (体験活動を中心に)

## ■はじめに

水辺でのごみ拾い(クリーン)活動は、各地で行われています。まずは実際にごみの現実を体感することが大切です。その活動に環境学習の要素を加えることにより、参加者はさらに理解を深め、ごみ削減の効果を高めます。

クリーン活動と併せて実施し、効果を高める環境学習プログラムを紹介します。(本資料では、長野県下諏訪町で実施したプログラムを中心に紹介します)

## ■学習のねらい

水辺のごみの現状と課題を知り、体験を通じて、水辺のごみを減らすために自分たちでできることを考え、行動し、周囲にも伝えられるようになる。

## ■もくじ

- I. 全体の流れ
- II. プログラム内容
- III. その他のプログラム
- IV. 資料集

# I . 全体の流れ

**事前学習** ・予備知識の享受  
・興味・関心を膨らませます

**実践活動** ・現状を知る  
・活動の気持ち良さを体感

**事後学習** ・活動の意義を理解  
・自分たちにできることを考える

**発表** ・伝えたいことをまとめる  
・他者に伝えることで意識の定着

## Ⅱ. プログラム内容



1. 事前学習



2. 実践活動



3. 事後学習



4. 発表

# 1. 事前学習

会場	教室、集会室など(屋内)
時間	1時限(40分)

## ■ねらい

身近な水辺の環境がどうなっているのか、どんな問題が起こっているのかを知る。ここから、ごみの影響を知り、ごみを減らさなければならないと感じるようにする。

## ■プログラム

- (1) 導入(ごみについて、思うこと、感じることなどを出し合う)
- (2) ごみの影響(ごみによる生きものへの被害など、影響を伝える)
  - a) 映像紹介 (海鳥、クジラ、海ガメなどの生き物被害の動画や写真などを紹介する)
  - b) 漁網アクティビティ(参考1を参照)
- (3) クリーン活動について(当日の手順、活動の意義などを伝える)

# 1. 事前学習

## 参考1: 漁網アクティビティ

- (1) 児童に生きもの役になってもらう。  
まず、漁網に見立てた園芸ネットを被せ、取り外してもらう。  
……(手を使って容易に外す)
- (2) 君は、イルカで手が無いんだ。手を使わずに外すことを指示する。  
……(手が使えないと、もがき、逆に余計に絡まる)
- (3) 説明  
ちょっとしたごみでも、生きものにとっては命に係わる  
大変なことになってしまうことを身をもって感じてもらった  
ことを伝える。



※イルカや、カメのぬいぐるみを利用し、その生きものとなる気分を盛り上げるとよい。  
※ネットが首に絡まないよう、必ず大人が近くで配慮する(子どもだけでは行わない)。  
※本アクティビティは、一般社団法人JEANのプログラムを参考にしています。

## 2. 実践活動

会場	水辺(屋外)
時間	60～90分

### ■ねらい

体験活動(クリーン活動)を行う。美化活動としてのごみ拾いに終わらないよう、ごみ拾いを通じて、ごみ問題を実感し、現場でのふりかえりを通じて、ごみを減らすことを考え、環境保全の意欲を高める。

### ■プログラム

- (1) 集合・挨拶 [約5分]
- (2) グループ分け(各グループのリーダー、記録係を決める) [約3分]
- (3) ごみ調査の説明 (参考2、資料1を参照) [約7分]
- (4) ごみ調査・ごみ収集 [約20～50分]
- (5) ふりかえり (ごみ拾いで感じたこと、ごみの影響、原因などをグループで話し合い記録する。資料2を参照) [約15分]
- (6) 全体まとめ・閉会 [約10分]

## 2. 実践活動

### 参考2:ごみ調査の説明

- ごみ調査の方法      ・「水辺のごみ調査カード」を利用し、1つ1つ記録する。
    - ・拾った際に、例えば「ペットボトルのキャップ3」と、記録係に伝える。
    - ・記録係は「水辺のごみ調査カード」に「正」の字でカウントする。
- ※最初にどのような項目があるかを皆で確認する。

- ごみの分類(燃やすごみ/燃やさないごみ など。  
自治体の収集方法に従う)  
(袋に入らないような粗大ごみは、別途回収場所へ)

- ごみ調査の範囲(○グループはここからetc.)

- 時間と集合場所

(約○分後の ○時をメドに、○○に集合)

- 集めたごみを持って集合。

- ◎注意事項:水の中へは入らない

尖ったもの、ガラスなど素手で触らない(大人に取ってもらう)

(地域によっては、危険な生きもの(ハチ、マムシ、アカエイ)、注射器などの注意)

水辺のごみ調査カード		
グループ名 <input type="text"/>		
＜自由に「正」の字を書きつけてカウントしてください＞ <span style="float:right">欄数</span>		
1	飲料ペットボトル	正
2	ペットボトルのふた	
3	レジ袋	
4	カップ型 飲料容器 (店頭販売容器含む)	
5	空き缶	
6	飲料バックストロー	
7	食品容器 (お菓きの包装など)	
8	プラスチック容器 (トレイ、カップめん、弁当箱 など)	
9	紙くず	
10	たばこのすいがら	
11	破片類	
12	<small>(スプレッシャー・液体に注意を喚起してください)</small>	
13	その他	

## 2. 実践活動

### ■ポイント

#### ○ごみ調査の説明

- ・調査・記録の方法、ごみの分類、活動範囲、集合場所・時間などを伝える。
- ・注意事項・安全注意を必ず行う。

#### ○ごみ調査・ごみ収集

- ・サポート役は、安全管理と、こんなところにごみがあるよ！などと導く。  
また細かいごみにも目が向くよう声掛けをする。

#### ○ふりかえり

- ・サポート役は、意見が出ない場合に、どんなごみが多かったかなあ？など簡単なことから問いかけ、話やすい雰囲気を作り出す。子どもたちから活発に意見が出ていればあまり口出しせずに、まとめやすいよう配慮する。

#### ○全体まとめ・閉会

- ・最後に、まとめとして子どもたちの活動を称え、今後、ごみを減らすための行動に結び付けるような言葉を引き出す。

# 3. 事後学習

会場	教室、集会室など(屋内)
時間	1時限(40分)～2時限(80分)

## ■ねらい

身のまわりにあるプラスチックのことを考え、ごみの現状と合わせて、ごみを減らすために大人ができること、子どもでもできることをグループそれぞれで話し合い、考え、行動に結び付ける。

## ■プログラム

(0) 事前準備－宿題－ (資料3を参照)

(1) 開会・ごみの状況の確認

(体験活動で感じたことを全体でふりかえる)

[約5分]

(2) グループワーク (5～6人のグループで、用意した

ワークシート(資料4参照)に従って話し合い、記入する

[約20～45分]

(3) クラスまとめ (ひとことでも全グループが発表できるように)

[約5～15分]

(4) 全体発表

[約5～10分]

(5) まとめ・閉会

[約5分]

※学年活動など、複数クラスがある場合は、先にクラスまとめを行い、全体まとめを行う。  
1クラスのみ場合は、(3)(4)合わせて10～20分とする。

# 3. 事後学習

## ■ポイント

- できるだけ2時限確保できるようにする。  
1時限で実施する場合は、時間配分に配慮して進行する。
- グループワークをする際に、隣のグループと声が重ならないようにできるだけ広めの部屋を用意する。
- 事前に宿題を配布し、必ず家族と一緒に記入するようにする。  
それによって、家族も一緒に、プラスチックごみについての意識を高める。
- クラスのまとめを行う場合には、できるだけ全てのグループが発表するようにする。1グループが1項目ずつ発表する。  
短時間で発表を進行するためには、あらかじめ、どの内容をどのグループに発表してもらうかのメドをつけておく。

## 4. 発表

会場	教室、集会室など またはイベント会場など
時間	任意(5分～ )

### ■ねらい

学んだことを他の人に伝えることにより、自分の考えをはっきりとまとめる。また、他者に伝えることにより、自らの意識の定着を図るとともに、学習に対するやりがいを感じる。

### ■プログラム

他学年や保護者が集まる機会、学校内行事、地域イベントなど、人前で発表する機会を設ける。人前で発表する機会が得られない場合は、壁新聞形式にまとめ多くの人が見られる場所に掲示する。

時間、対象者などに合わせ、体験活動や事後学習で学んだことをグループでまとめて、発表する。

### ■ポイント

- ・写真を活用するなど、知らない人にもわかりやすい見せ方を工夫する。
- ・学習を通して感じたことや、これからに向かっての決意を表明するなど、内容を工夫する。

# Ⅲ. その他のプログラム

本資料では、体験活動を中心に、プラスチックごみなどの水辺のごみを減らすためにできることを学ぶプログラムを紹介しました。他にも、ごみ拾い(クリーン)活動に関連した環境学習教材を紹介します。

## ○海洋ごみ教材 (環境省)

教科の中で、海洋ごみに関連すると考えられる単元の題材として、授業で利用しやすい素材を提供することを目的として作成されています。

- ・海洋ごみ学習教材(小中学生用)
- ・海洋ごみ学習教材(高校生用)

[http://www.env.go.jp/water/var/www/html/iq\\_import/water/marine/litter/post\\_43.html](http://www.env.go.jp/water/var/www/html/iq_import/water/marine/litter/post_43.html)

## ○「海辺のカルテ」漂着物ワークブックこども用 (一般社団法人 JEAN)

こどもたちが自分で読んで実践できるアクティビティと、その指導者用教材です。(有料)

<http://www.jean.jp/material/>

## ○紙芝居

クリーン活動の前または後、その他環境学習の機会等に紙芝居を活用し、理解を深めます。

- ・荒川クリーンエイド・フォーラム <https://www.cleanaid.jp/acaf/publicity/kamishibai>
- ・水Do! ネットワーク <http://sui-do.jp/news/2973> 、 <http://sui-do.jp/news/3076>

## ○ごみマップを使ったプログラム

クリーン活動で拾った位置と物を地図上に記録し、ごみマップを作成します。

できあがったごみマップを地域で共有し、ごみ問題を地域で解決を考えるようにします。

# IV. 資料集

## 資料1. 水辺のごみ調査カード(例)

実践活動で利用。

地域、ごみの状況、気づきを促したい項目などに合わせ柔軟に変更ください。

## 資料2. ふりかえりシート

実践活動で利用。水辺のごみ調査カードの裏面に用意ください。

## 資料3. 事後学習の宿題

事後学習の前に宿題として家族と一緒に考えて、授業に臨むためのもの。  
宿題の裏面には、実践活動のごみ調査の結果を参考に掲載します。

## 資料4. 事後学習用ワークシート

事後学習で利用。

記入しやすいようA3サイズの内紙を用意します。

※いずれも、これら資料を参考に適宜変更しご利用ください。

お問い合わせ先:  全国川ごみネットワーク <http://kawagomi.jp/> (Eメール) [kawa53@kawagom.jp](mailto:kawa53@kawagom.jp)

※本資料は、下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会にご協力いただき作成しました。

※独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金企業協働プロジェクト(LOVE BLUE助成)を受け、作成しました。



# 水辺のごみ調査カード

グループ名

<余白に「正」の字を書いてカウントしてください>

個数

		正	
1	飲料ペットボトル		
2	ペットボトルのふた		
3	レジ袋		
4	カップ型 飲料容器 (店頭販売容器含む)		
5	あき缶		
6	飲料パック・ストロー		
7	食品ポリ袋 (お菓しの包装など)		
8	プラスチック容器 (トレイ、カップめん、弁当容 ... ど)		
9	紙くず		
10	たばこのすいから		
11	破片類		
12	(スペシャル-自由に項目を決めてください)		
13	その他		

# ふいかえいシート

●ごみ<sup>ひろ</sup>拾いで<sup>かん</sup>感じたことを<sup>はな</sup>話し<sup>あ</sup>合いましょう

●川<sup>かわ</sup>にごみがあると、自然<sup>しぜん</sup>やみなさんのまわりにどのような<sup>えいきょう</sup>影響があると<sup>おも</sup>いますか？

●ごみは、どこからや<sup>おも</sup>ってきたと<sup>おも</sup>いますか？

## <<川や 町の中の ごみを考えよう>>

(授業で使います。家族と相談して考えましょう)

1. 身のまわりで使っている(家や、学校で、自分や家族が使う)プラスチックの品物を 10 個以上書いてください


2. 川で行ったごみ拾いの結果(うら)を見て思ったこと

3. 川や町の中のごみを減らすためにできること

子どもができること:

おとなといっしょにできること:

ごみを減らすためにやりたいこと:

# 1. 川や町の中のごみを減らすために 子どもが・・・

(子どもができること)

## 2. 川や町の中のごみを減らすために 子どもとおとなが・・・

(子どもとおとなといっしょにできること)

# 3. 川や町の中のごみを減らすために こんなふうにしたたい！ (そのために、どうするとよいかも考えましょう)